

令和4年度伊予市総合教育会議 議事日程

1 日 時 令和4年11月14日（月）午前10時30分から

2 会 場 伊予市役所2階 会議室1

3 出席委員

伊予市長	武 智 邦 典
教育長	上 岡 孝
教育長職務代理者	矢 野 ひとみ
教育委員	片 岡 英 富
教育委員	長 見 美 保

4 欠席委員

教育委員	高 橋 久美子
------	---------

5 会議に出席した事務局職員

事務局長	窪 田 春 樹
学校教育課指導主幹	相 原 勝
学校教育課指導主事	松 山 香 織
学校教育課課長補佐	福 岡 富美子
学校教育課課長補佐	田 中 富 美
学校教育課	
学校給食センター所長	武 知 齊
社会教育課長	岡 市 裕 二
社会教育課課長補佐	堀 内 和 美
社会教育課課長補佐	北 岡 康 平
社会教育課課長補佐	石 崎 恵 美

6 協議事項

- (1) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動
- (2) 部活動の地域移行

午前10時30分 開会

○窪田局長 開会

最初に、武智市長から御挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

○武智市長 皆様、改めましておはようございます。

皆さん方におかれましては日頃より様々な形というか、教育行政におきまして御尽力を賜っておりますことを心よりお礼を申し上げます。

御案内のとおり7年ほど前に、10年に1回は全国の自治体が国に提出をしなければならない総合計画をつくりました。そのときに書いたフレーズっていうのが、3万人が住み続けたいくなる環境整備とか3万人の雇用を創出できるような産業育成とか3万人の力を結集する意識改革とかという、その枠組みの中で3万人を目指すに掲げました。

ただ、9月10日、御案内のとおり県下20市町の2060年の人口推計が出ました。もう8年前からその数字は分かってたんですけども、伊予市の人口はあと38年後に1万7,145人になってしまう。ちょっとショックだったのが、松前町と東温市と比較をされたということで、今は伊予市が一番人口が多いんですけども、松前町も東温市も2万3,000人、4,000人と、6,000人ぐらい差が出てしまうと。それはまあいいかと、苦言を呈されたと思って真摯に受け止めて、それをプラスに超越する、1万7,145を超越するような移住・定住策、そのためには学校、未来につながる子供たちが生き生きと勉強の場、学校の場っていうのを構築しながら、当然いじめとかそのようなものもない生き生きと笑顔のある学校教育環境でなくてはならないと思っています。

また、様々な形で給食費等々ももろもろ物価高騰で上がってはきておりますし、最近ちょっと給食センターの件で、御迷惑かけておりますけれども、当分の間、私が市長の間は今のところ給食費は上げる予定は、つもりはございません。そもそもが無償化にしようっていう案件で、平成二十六年、七年頃は協議をしたんですけども、毎年1億5,000万円ほどの金がかかるというのは、これは未来に無理だよねっていうことで無償化はしませんでしたけれども、そういう位置づけで幾ら材料が上がったところでそういうことは今のところ考えておりません。

また、次に部活動の地域移行ということがあります。愛媛銀行さんとかもろもろがそういうバックアップをしたいというようなお話も来ておりますけれども、とにかくにも我々市長部局といいますか、教育委員部局といいますか、やっぱりしっかりと両輪は議会と理事者っていう位置づけかもしれませんが、しっかりとコミュニケーションを取りながら進めていかなければならないと思っています。そして、来年4月からはこども家庭庁というのができますので、それにも即した人事体制をつくっていききたいなと思ってます。やはり若い二十歳以下の人たちも、これから日本の未来をしょって立つ方々ばかりなんで、とにかく今日は貴重な時間を賜っておりますけれども、忌憚のない御意見を賜りながら実りのある会議にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○窪田局長 ありがとうございました。

続きまして、協議事項に入りますが、伊予市総合教育会議設置要綱第4条に市長が議長となるとありますので、以下の協議につきましては武智市長の進行でよろしくお願いいたします。

○武智市長 それでは、早速協議事項に入らせていただきます。

協議事項1、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動についてでありますけれども、このことについて事務局から説明を申し上げます。

はい、岡市課長。

○岡市課長 失礼いたします。社会教育課の岡市です。

私から、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進について御説明をさせていただきます。

失礼ですが、着座にて説明させていただきます。

まず、お手元の資料、伊予市総合教育会議資料1、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を御覧ください。

この資料は、令和4年10月7日に愛媛県で唯一のコミュニティ・スクール推進員でいらっしゃいます西村久仁夫先生による研修を行った際の資料でございます。本日はこの資料を基に説明をさせていただきます。

2ページをお願いいたします。

現在の教育については、平成27、28年に中教審答申、29年に関連する法律の改正及び学習指導要領の改訂が行われ、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を推進する方針が示されております。これは、地域ぐるみで子供の成長を支える、また子供と地域の未来をつくることを目的にしております。

3ページをお願いします。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度のことで、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組み、地域と共にある学校への有効な仕組みとなっております。また、地域学校協働活動とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えると共に、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携、協働して行う様々な活動をいいます。

これからの学校と地域は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を結ぶ地域学校協働活動推進員を置き、1つの取組として共に活動していくことが望むべき在り方とされております。

上段は、学校運営協議会のイメージとなっており、地域住民や保護者、地域学校協働活動推進員等が学校運営協議会に加わり、地域と共にある学校づくりに取り組むことが示されてお

ます。

6 ページをお願いいたします。

上段には、実際に行われている学校運営協議会の様子が掲載されています。

南予の学校では、防災や伝統芸能などについて学校と地域が共に協議し活動しているようでございます。

また、下段にはコミュニティ・スクールを成功させる4つのポイントが示されています。

伊予市では、これまでも社会教育にとどまらず、学校と地域が共に連携、協力しながら、多種多様な事業や活動に取り組んでいただいておりますけれども、地域と共にある学校づくりと学校を核とした地域づくりを併せて実現するためには、組織的、継続的な体制の構築が必要であり、本市においてもコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進が急務であると考えています。

これらのことから、教育委員会では今年度、機会を捉え研修を行っておりますけれども、令和5年度においてコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の積極的な推進のため、地域住民の方々に御理解をいただけるよう、各地区公民館単位での説明会を実施する予算を計上したいと考えております。予算の内訳としては、講師謝金、通信運搬費、会場使用料など60万円程度を想定しております。

なお、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進に関する県等の補助金について現在調査を進めておりますけれども、活用できる補助金等があれば積極的に活用したいと考えております。

地域と共にある学校と学校を核とした地域を目指し、積極的に推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進取組に御理解を賜りますようお願いいたします。

以上、簡単ではございますが説明とさせていただきます。よろしく御審議をお願いいたします。

○武智市長 はい。ただいまの岡市社会教育課長の説明につきまして、内容等々、または疑問点、また提案等々ございましたらよろしくお願いをいたします。

矢野ひとみ教育長職務代理者。

○矢野委員 はい。今、課長さんから御説明をいただきました。コミュニティ・スクールにだんだん変えて移行していくためには、まず学校が変わる、それから地域が変わる、この2つ両方から攻めていかなければならないというのが話でよく分かりました。

私も、まず地区にある公民館がネックじゃなかろうかと思うんです。これをうまく推進していくためには、公民館。公民館をよりこちらに持っていくために、さっき予算化して、そして勉強会ですか、地区公民館で勉強する予算を計上しているみたいなことを言われたんですけど、これについてももう少し具体的なことが分かれば説明していただけると、より中身が

ちょっとだけ見えてくるんじゃないかなと思ひまして、よろしいでしょうか。

○武智市長 岡市裕二社会教育課長。

○岡市課長 失礼します。矢野委員さんの御質問に答弁いたします。

まず、御指摘のとおり、このコミュニティ・スクールと地域協働活動を推進するためには、学校、地域、それぞれの意識改革が必要だと考えております。学校へは、教育長から校長会を通じてコミュニティ・スクールの推進についてお話をいただいているところでございます。私ども社会教育課としては、地域の改革、意識改革を重点的に考えておりまして、先ほど簡単に御説明いたしました地域の説明会、こちらは各公民館単位、伊予市に6地区公民館がございます。旧の伊予地区に4つ、双海と中山それぞれ1つ公民館がございます。

先ほど、本日の資料のことについてお話しさせていただきましたけれども、愛媛県で唯一国のコミュニティ・スクール推進員に任命されております西村先生の御講演を先日いただきました。その様子をビデオに収録をいたしております。西村先生に御了解はいただいておりますので、まず一度、各地区公民館単位でこの資料を活用して西村先生の御講演を皆さんに聞いていただく。その後、実際に地域の中にこういった人材の方がいらっしゃるのか。先ほど説明でも触れさせていただきましたように、推進員という方を最終的には任命することにはなるんですけれども、推進員の方、こういった方が地域におられるか、そういったところの情報提供も併せてお願いをしていくというふうに考えております。

期間は明確に定めてはおりませんが、できれば令和5年度、来年度、コミュニティ・スクールの導入ができればいいなということで鋭意取り組んでいきたいと現在考えております。

公民館の立ち位置ですけれども、資料の3ページの上段右に緑で公民館と位置づけがなされております。やはりそれぞれ地域の中にはいろんな各種団体等、人材等がおいでます。その取りまとめというところは、やはり委員御指摘のとおり、公民館がすべきだろうと考えておりますので、先日行われた西村先生の研修にも公民館職員等を出席もさせておりますので、社会教育課一体となってこの事業に取り組んでまいりたいと考えているところです。

以上、答弁とさせていただきます。

○矢野委員 ありがとうございます。すみません。

○武智市長 矢野教育委員。

○矢野委員 細かいことを聞いて恐縮なんです、さっきの伊予市の6公民館で会議を開くという話で、対象者はどのような方に来ていただくように案内状を出すんですか。お願いします。

○武智市長 岡市課長。

○岡市課長 失礼します。矢野委員さんの御質問にお答えいたします。

現在のところ、公民館だより等で地域住民の方に広く周知をすることと考えておりますけれ

ども、先ほど申しましたように公民館で地域にある各種団体等を把握していると思います。公民館だよりで幅広く周知するのみならず、各種団体に御出席の依頼をかけ、なるべく多くの方に御出席いただきたいと考えております。

以上、答弁いたします。

○矢野委員 ありがとうございました。

○武智市長 これは、小・中全て。

○岡市課長 全て。

○武智市長 全て。

○岡市課長 はい。

○武智市長 こんなこと言ったら悪いけど、それぞれの学校の校長の本気度でも違ってくるし、そして基本的にはまず学校が能動的に動かんといかんので、まず地域は最初は受動的でええけど、その後、地域のほうから能動的に学校のほうにこうしようや、こうしようやっていうことと、やはり特に小学生の子供たちにそれぞれの地域の成り立ちっていうか、いろんな人が出てきたりもしてるし、偉人というんじゃないけれども、やはり住んでるところに誇りを持つような教育をさせないと、私が常に日頃から言ってる今の小学生たちが大人になって、やっぱり家を建てるのはこの伊予市がいいよねと、新しい生活をこの伊予市で築いていこうっていうのは、今その機運を醸成しないと3万人なんかあり得ないんで、だからそこはきちんと公民館で一方的に各種団体にこんなことするんですよと言うてもあれやから、まず、いろいろと仕事も多いから大変だろうけど、学校側はこういうカリキュラム的なものを用意するんですよ、今後は地域と共にある程度協力してくれませんかと呼びかけたら、伊予市は、意のある人たちは、じゃあこんなことしようやとか、ある意味ボランティア的なところもあるけど、今の60万円の中で車代がちょっと出るぐらいのことかもしれないけれども、そこらはちゃんとしとかんといかんと思います。

上岡孝教育長。

○上岡教育長 先ほど議長が言われたように、一応公民館のほうで主体で今回は研修会等をもっていただきましたけども、全て各学校の校長先生、用事があつたら別ですけども、ほとんどの校長先生に参加をいただいております。それから、定例で開かれる校長会においても、コミュニティ・スクールのことについては個人的にも私のほうからもお願いもしております。

先ほど言いましたように、3万人が住み続けるまちということで、それを実現するためには、議長も言われましたとおり、やはり地域と共にある学校をつくっていききたい。全国で今3分の1ほどがコミュニティ・スクールを完成をしております。本県におきましても、近隣の松山市、東温市のほう、あるいは宇和島市、西条市のほうでもこういったコミュニティ・スクールをつくっているわけですけども、特に地域の文化、歴史を伝える、子供たちに伝えていくことが何より一番大事なことだろうと思っています。

このためには、やはりこういったコミュニティ・スクールをつくって、学校運営委員会において地域の方々から子供たちに様々なそういった地域の伝統文化を伝える機会をつくりたいということで、校長会のほうには行政主体ではなく、令和5年度にはモデル校をつくって学校がやってもらうか、あるいは令和5年度からある程度各学校においてこういった形でつくっていくのか。令和6年度には全学校で一応コミュニティ・スクールを開始してほしいという計画では、各学校に、校長に話を進めております。

以上です。

○武智市長 教育長の文化っていうので、ちょっと皆さん方と情報を共有しておきたいんですけど、役に立つか立たないかは別にしても。残念ながら永木小学校とか野中小学校は閉校になって中山小学校に統合しました。今サテライトスタジオ、地域事務所だけじゃなしにそれぞれの集会所に行ってるんですけども、重藤の集会所でお話ししてるときに、体育館でいろんなことをしたいんだけど、使用料が云々かんぬんっていう話がありました。永木地区のサークルありきではやれんけれども、公募したって多分永木のサークルしか手を挙げんだろうから言いますけれどもということで、15年なら15年間、もうそこに完璧に責任を持たせて維持管理から全部してもらおうと。その代わり使用料は一切取らないという形で体育館で獅子舞や文化芸能の練習等々もしたいということなんで、今元気な70代が元気でやる気があるうちにやらないと駄目だよねって地域事務所長にも言ってますし、教育委員会のほうにもお願いしてるわけであります。

今後、そういう枠の中で、永木小学校はなくなったけど永木に子供はいるんです。その子供たちをやはり教育する。その学校っていうよりも、やはりリアルな生の子供たちをいかに地域と密着させて、例えばふるさと永木、野中、そういったところを大人になっても愛せるような形を取らないと駄目かなと思ってます。

だから、そういうものを今後様々な形で使ってくれないと中山の保育所も今空き家状態なんですけれども、あそこもこよみスペースの砂川君が幾分興味持ってくれてるんだけど高過ぎた。こういう切り口でこうして年間100万円以下で貸せれるぐらいにしようということで今段取りを組ませてますけど、その案で使ってくれたら中山保育園も傷まずに済むし、彼がもし15年になったら彼の力でいろんな改修をするわけです。それは自由にやらす、その代わり維持管理を全部あんたとこでやってねと、そうするとうちも楽ししいろんな意味で未来につながるものができてくるんじゃないのかな。

それはもう、今永木においては元気な70歳っていつてるけど、じゃあ15年後、その人たちがいつまでも元気かっていったらなかなか難しい。ただ、そういうことをしている間に後継者をどうつくっていくかということが特に大事で、今中山の人たちとか双海の人たち、旧の伊予市もそうですけど、本当に愛している人は地域を本当に情熱を持って愛してるし、そこで生まれ育った誇りっていうか矜持も持たれてます、見てたら。

ただ、いつまでもは無理だよねっていう部分があるんで、あとは後継者っていう部分かな。そこにコミュニティ・スクール等々でやっていくと、子供たちが大きくなったときに新たなリーダーができてくるし、今いないわけじゃないけれども、そういうふうに構築をしていくという、ある意味文字にしたら結局きれいごとばかりで、総合計画でも何でもやけど、ただ現実には、書いた以上はやれっていうのが私の位置づけなんで、3万人も正直8年前に書くなよって言ったんですけど、でも数値目標が要るっていうんで書きました。でも、書いた以上はやらないといけない、本気で。だから、結構この薄っぺらいこれですけど、これ大変だなと思います。だけど、書いて伊予市がそういうふうにコミュニティ・スクールと地域学校協働活動というのを本気で取り組むのであれば、それしてください。特に、別に校長先生に差異も乖離もないとは思いますが、やっぱりそれぞれ性格があって本気度が違ってくると思うんで、そこらはまた教育長のほうでよろしく願いをします。

あとまた、その他のところで今のこの続きがあったら御質問ください。

では、続きまして、協議事項2の部活動の地域移行についてでございますけれども、事務局からの説明をお願いいたします。

相原勝指導主幹。

○相原指導主幹 失礼します。

それでは、資料2、1ページを御覧ください。

部活動の地域移行について御説明いたします。

皆さんも中学時代に何かしらの部活動に入って、仲間と共に活動した思い出もあるのではないかと拝察いたします。この部活動については、今年6月にスポーツ庁の有識者会議が中学校の部活動を地域のクラブや民間団体等に移すための対応策をまとめた提言を室伏スポーツ庁長官に提出したことが大きくメディアにも取り上げられたところでございます。

これまで部活動は、スポーツや文化活動に興味、関心のある生徒が参加し、教員等の指導の下、学校教育の一環として行われ、我が国のスポーツ、文化活動の振興を大きく支えてきました。また、体力や技術の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係を構築したり、学習意欲の向上、自己肯定感、責任感、連帯感などが養われたりするなど、生徒の多様な学びの場、そして活躍の場として教育的意義を有してきました。

しかしながら、今日においては社会の複雑化、多様化により、学校や教員だけでは解決することができない課題も増えております。とりわけ少子化が進む中、部活動においては従前同様の運営体制では維持は難しくなっており、学校によっては存続の危機すらあります。本市においても、部員数が減少し、部活動によっては部活動が成立しにくくなっている現状もございます。

また、もう一つの大きな課題として、教員に関することがございます。校内の教員構成上、

競技経験のない教員が指導をせざるを得なかったり、休日の部活動の指導のほか、大会への引率、大会運営の参画が求められたりするなど、教員にとっては大きな業務負担になっている実態も見過ごすことができないというところがございます。

こうした背景から、子供たちの生きる力を育む基盤となる部活動を持続可能なものにするためには、子供たちのニーズに応じたスポーツや文化活動を行うことができる環境を構築する必要があります。さらには、教員の労働環境の改善、働き方改革のためにも部活動を改革する必要があるというわけでございます。

これまで部活動は、学校教育の一環としてよくも悪くも学校が丸抱えでございました。これからは、地域が子供たちをどう育てるのかという視点が重要です。学校と地域が協働、融合した新しい部活動の在り方を構築するというものでございます。

では、下段になりますけれども、その部活動改革の方向性と目標期間についてですが、提言の中では、まずは休日の部活動から段階的に地域移行していくことを基本とすべきとされており、その際、平日の部活動の地域移行についても視野に入れ、休日の部活動の地域移行と共にできるところから取り組むこと、地域の実情に応じた休日に関する地域移行の取組の進捗状況を検証し、さらなる改革を推進すべきとされております。

また、部活動の地域移行の時期については、来年度の開始から3年後の令和7年度末を達成目標とした上で、それまでを改革集中期間として、全ての都道府県で具体的な計画を策定することが適当とされているところでございます。

それでは、本市としてどのように部活動の地域移行に取り組んでいくかということでございますが、資料2ページとなります。

6月の提言を受けて準備を始めたところでございますが、全国のモデル校、モデル地域の先行研究を参考とするとともに、今県が立ち上げた市町連携協議会に参画をしながら情報交換、検討を進めているところでございます。

そこで、本市の移行スケジュールですが、今年度中に学識経験者、伊予市スポーツ協会代表、小・中学校関係者、保護者代表等による検討会議を設置し、地域移行に係る仕組みづくりや運営方法の検討、推進計画の作成等に関し具体的な協議を開始したいと考えております。これが3ページにございます検討会議設置要綱案になります。

また、各中学校の部活動に入っていない生徒も含めた1、2年生の生徒とその保護者、令和5年度以降中学校に入学する現6年、5年の児童とその保護者のニーズや中学校に勤務する教員の意向についてアンケートを実施し、今後のふさわしいスポーツや文化活動の在り方について検討する材料としたいと考えております。そのアンケートというのが5ページ以降というふうになっております。

さらには、来年度以降の推進に向けて必要な経費や人員等を検討、措置を図りたいと考えております。9ページにございます諸経費等、今考えているところを案で示しております。

このような準備を進めながら、令和5年度より一部の可能な部活動から実施を開始し、令和7年度末を目途に段階的に地域活動の拡充を図りたいと考えているところでございます。

では、具体的にどのような形で運営ができるかという点、2ページ下段になりますけれども、市内中心部に設置されている学校から山間地域と地方部に設置されている学校では、それぞれの地域におけるスポーツや文化活動の状況は様々でございます。このため、地域の実情に合わせて様々な手法の中から当該地域に適したものを選択し、創意工夫を凝らしながら地道に改善策を模索していく必要があると考えております。

ここに上げている学校単位モデルは、それぞれの地域で地域の団体や組織等が指導者となり、部活動を運営するものです。ここに希望教員兼職兼業と記しておりますけれども、教員の中には専門的な知識や技量、指導経験があり、かつ地域でのスポーツ指導を強く希望する者もいることから、これらの者が兼職兼業の許可を得ることにより、地域で指導できるということも考えております。

もう一つの合同モデルは、それぞれの中学校に設置する同一競技の部活動が1つの場所に集まって地域の団体や組織等から指導を受けるというものです。この場合、在籍する中学校にその部活動がなくても、本人の希望により一緒に活動することは可能であると考えております。

以上、中学校の部活動については、学校単位から地域単位での活動に積極的に変えていくことにより、少子化の中でも将来にわたり子供たちがスポーツや文化活動に継続して親しむことができる機会を確保することになり、ひいては学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上にもつながると考えております。ぜひとも本市中学校においてできることから部活動改革に着手したいと考えておりますので、どうぞ御検討のほどをよろしくお願いしたいと思います。

以上です。

○武智市長 ただいまの説明対しまして、御意見等をよろしくお願いいたします。

さっきもちろっと冒頭の御挨拶で言いました、愛媛銀行とか言いましたけど、愛媛銀行と南海放送とセキが地域商社ってのをつくってるんです。フレンドシップえひめだったかな。ふるさと納税とかもろもろでも協定を組んでるんですけど、そこがまたこの部活動の地域移行も、国からの指導もあるのか知らないけれども、何がしかの補助もあるのか知らないけれども、現実に教えますよっていったときに、私ふと思ったのは、いやいや例えば郡中小学校とか港南中学校とかでそういうことができて、逆にじゃあ双海とか中山の学校が蚊帳の外に置かれてもいかんが、それぞれがまたやってもいけるんだろうけど、できないところは、じゃあ先生が負担するのっていうふうなことで、基本的にはもうこの形っていうのが今日本国、もうどんどんどんどん人口も減ってきてる状態で、特に県庁なんかもうそうだし市役所なんかもある程度そうだし学校もそうでしょうけど、結局責任力が強過ぎると抱え込んでしまって鬱病になったり適応障害を起こす、これは一つの病気なんですけど、それはやっぱりやり過ぎてるのもあるのか

もしれないけれども、そういう部分もクリアしていくためにも、こういう地域への移行っていうのが大事で、ただ単純に地域が部活をどう支えるかなんていうのはなかなか難しいことではあるけれども、試行錯誤しながらやっていく。

例えば、私は中学校の1、2年、3年のときに野球部に入ってたけど、先生が2人ほどいたけど、1人のコーチの先生はキャッチフライもよう打たんぐらいの状態で、先生いいよ、私がやるわってキャッチフライやったりしてたんだけど、なかなか教師にとって大きな業務負担っていうのも、競技経験のない教員が教えるというのは大変なことだし、それはもういないから教えないといけないというジレンマがあるんだと思いますけども、それにこの最終のページも、ある意味分かってるけど驚愕の数字で、令和10年の児童・生徒数を見てると、はあはあはあってなってくるんですけども、生徒数も少なかったらチームでの部活もできなくなってくるし、そこらも含めながら最終的には統合というような形を取らざるを得ない。

だから、ちょっと余談ですけど、愛媛県の今の高校の再編計画というのは、考え方は合ってるんだけど、私に言わせたら説明責任が足りない。だから、砥部や北条でものろしが上がってるんで、もっと丁寧に地域住民を巻き込んで説明をしてやらないと、あれでは無理だなって。まだまだこれは多分、1月にそのとおりにいくかどうか難しいと思いますけど、とにかくいろんな意味でこれもいろんな保護者ともしっかり話し合いながらやっていかんといかんと思うんですけども、岡市さん、何か補足あるかな。

岡市課長。

○岡市課長 先ほど相原主幹から御説明がありました、社会教育として伊予市スポーツ協会という団体の事務局をしております。このスポーツ協会の会長ともこの部活動移行について今現在お話を進めておるんですけども、なかなかスポーツ協会自体も高齢化をしております、なかなか今の現在の活動を維持するのがいっぱいなところがございます。

ただ、考え方を考えれば、そういう状況ではあるんですけども、今回の部活動移行をある一定関与することによって、今のスポーツ協会自体の活動の活性化にもつながるのではないかなというふうにも考えておりますので、まだこれからではあるんですけども、積極的に関与していきたいと今考えております。

○武智市長 これも余談だけど、昔平成十五、六年ぐらいの懸垂幕に、知らない人とは話してはいけませんというふうなことが書いとるんだけど、でも通常どここの孫ってそうそう分かんよねって。

結局、私がずっと言われてきて一旦途絶えてた祭りのおみこしも寄附を行って復活しました。そうすると、ああどここのあれはじいちゃんよとか、どここのあれは孫よとかというふうになって、結局子供らがずらずらずらず伊予川内線も、200メートルぐらいの長さ、夕方になってきたらお菓子をもらうために着いてくるんですけど、その昼間から朝からひっついてるもんだから、結局そのどここの子とかどここの何とかが分かってくるし、かき

夫もじいちゃんばあちゃんから見たらどこの若い衆でって、どこどこの何とかよ、そこから人が知ると。知らない人に声かけられても、普通の人歩いてきて、おはようというて挨拶したらいかんっていうんと一緒なんで、まずは地域を知るっていうのは大事で。

昨日もちょっと新採の採用試験があって、岡山県と松前町どっちが好きよって、南黒田と。やっぱり小っちゃい頃から育ってると近所の人声かけてくれる、岡山はどうしても大学ではとんど付き合いがないんで、学校へ行ったらキャンパスでお友達はあるのかもしれないけど、やっぱりそういう意味でも南黒田が好きですとかって言ってた子もいましたけど。

やはり、まず知ることって大事だと思いますんで、サークルへ入って先生が、先生っていうのは学校の先生じゃなしに体協とかもろもろの先生が出てきて、そこから知り得るんだろうけど、やっぱり何も知らないよりは知っとる知っとる、あのおじちゃんとかという言いながらやると良いし、我々のときは大人への敬意っていうのは、昭和だから取りあえずキャッチボールが打てない先生でも大人への敬意があったから、下手くそが教えると今の子供だったら何やっていう時代だから、やっぱりそこもしっかりしとかんといかんし。

そういう点も含めて、スポーツを取り組んでた教育長から何か補足がありましたら。
○上岡教育長 前にも教育委員さんにもお話はしたと思うんですけども、この問題については、やはり指導者、人材、それから活動場所、それから移動、それからあと活動費を取るかどうかと講師の謝金等、かなり大きないろいろな問題があります。これをクリアするのになかなか早急には改革を進めることはできませんので、一応基本的にはできるものからやっていく。そのできるものからというのは、ある程度各学校においてやっぱり部活動の整理をしていく、それから合同チームでできるものは合同チームでということになっております。

先般の伊予地区の新人戦で、砥部中学校と港南中学校が野球部が合同チームでした。これで、割合いろんなところから、なぜ砥部中と港南中学校の合同チームをつくったんだということになったんですけども、これが優勝しまして県大会等にも行ったんですけども、こういった合同チームを考えていくんですけども、やはり今伊予市として大事なものは、いろいろ議会でも質問等も出たんですけども、やっぱり学校を替わらなくても何とか自分が好きな部活動ができるというような形をつくるのが伊予市としての課題ではないかと私は思っております。

だから、ソフトボールをしたいのであれば、ソフトボールというのは今港南中学校しかないんですけども、女子のソフトボール。ある程度、港南中学校を主体としてソフトボールをしたい、もし女の子がおったら、中山からでも双海からでも伊予中からでも港南中学校のそこと一緒にスポーツができる。土日は特にどこかでみんなが集まって土日の練習から始めていくというような形から、できることからやっていきたいと思います。一遍にやりますと、私が懸念してるのは前の週休2日制の子供たちを地域に帰すと、土曜日、日曜日は地域に帰すんだということで30年前にそういったことが始まったんですけども、30年たっても地域には帰っておりません、子供たちは。

そのためには、やっぱり地域の指導者とか人材とか、そういった先ほど議長も申されましたけれども、企業ともいろいろ相談をしながら、本当は大学生とも大学のそういったものも、指導者と使いながらやればいいんですけれども、大学とのその辺の指導等、提携というものが難しくはなってきますけども、今度松山大学とそういったところで提携も伊予市はするわけですけども、そういった切り込み口をつくって、徐々に人材を確保しながら、まずは人材を確保しながら、先ほども言いましたように、どの子供たちとも、伊予市の子供たちがやりたい部活動がどこかではできると。特に、最終的には学校が替わらなくてもできるんだというような形をつくれば、理想論でありますけれども、いいなと思っております。

以上です。

○武智市長 ありがとうございます。

1点だけ、砥部中と港南中学校の合同の野球っていうのは、あくまでも砥部中で9人が確保できないというので始まったなら分かるんだけど、砥部に9人おってというたら強いチームをつくるだけで、それは他市からいうたらなんじゃそれということになるけど、つくれなかったん。

○上岡教育長 砥部中のほうが、ちょっと人数が。

○武智市長 つくれなかった。砥部中につくれなかったけど、優秀な選手もいたというぐらいのことかな。いや、港南が全部仕切ったのかどうか知らないけど、それは……。

○上岡教育長 そこでは合同チームで、はい。

○武智市長 いろんな意味で、様々な形で何かを、教育委員の皆様も含めて、私たちも含めてやけど、誰かと接着剤やないけど磁石みたいにつないできて、いい人をそこにそこについでコミュニケーションっていうかネットワークができれば、またこの地域の部活動のあれもできてくると思います。ただ企業だけが手を挙げてっていうと、何かそこには利益っていうのが存在するのかな。要は、企業さんなんかで経営審査の点数とかがあって、そういう部活に貢献してますよったら点数が上がるんですよ。だけど、そういう枠だけじゃなしに真剣に体協の人たちとかも含めてやると。

ただ、地域っていうのは意外と面白いんで、我々が昭和の時代っていうのは、本当に伊予小学校、伊予中学校の運動場は1つしかないですけど、その運動場でまずは固いバレーボールをしてた、コートをいっぱい張って、それからまたソフトボールのチームも宮下でも五、六チームあったというような枠の中でやってた流れが、どんどんどんどんそれが、その子供たちが消防団員に入り、もろもろ入りというような枠組みの流れがあったんです。

結局、消防団もソフトボールも一緒じゃないかというようなチームもあったけれども、そういうような磁石的なものがどう構築していくかっていうのが、この教育のこの会の一つの責務とはいいいませんけれども、方向性なのかなと。なぜ教育会議してるのって言われたときに、こういったこともちゃんとやってるんですよ我々はっていうふうにならないと、やはりいかん

し、それにこの教育会議自体も参加してる委員さんも生きがいを持ってやっていただかないといかんし、そういう人がまず教育委員さんになっていただいてますけれども、部活動地域移行、これはちょっと私も頭の中で整理ができませんが、いろいろと大変でしょうけど、相原先生、よろしくお願いします。

矢野教育長職務代理者。

○矢野委員 3点お伺いします。

ちょっと聞き漏らしたかも分からないんですが、1点目は相原先生が説明してくださった2ページ、部活動の合同モデルという、あの辺の話で、集まるための移動手段について具体的な考えはどのような考えなのかなっていう。

それから2点目は、アンケートがたくさんここに書かれて、なされております。私もずっと読んだんですけど、なるほどなあと思いながら読みました。これをもう実施したのか、まだこれから実施するのか、いつするのかっていうのが2点。

それから、3点目が一番大きな課題だと思うんですけども、さっきの社会教育課長さんが説明していただいたコミュニティ・スクール、コムスクとの絡み。コムスクでの地域学校協働活動推進員ですか、をどう決めるか。それは部活動のほうの協力者ですか。そして、小にも要る、中にも要るったら、かなりな人数が、あんまり大きな人数、重なってもいいと思うんですけども、その人材確保が本当に難しくなってくると思うんです。

さっきから議長さんのほうも言われていたように、いろんな会社からも来る、いろんな団体からも来る、なるほどなと思いながら聞いたんですけど、いかにこれをスムーズに進めるかっていうのは、校長の本当にアンテナがどれだけ地域に巡らされているかっていうのが一番大切だと思うんですが、そこら辺あたりはどういうふうにお考えか、これは教育長さんになるんですかね。

3点、お願いします。

○武智市長 相原指導主幹。

○相原指導主幹 まず1点目の、モデルのイメージなんですけれども、ちょっとこの地域移行も、今年度話題に上がってきたところで、本当に県下20市町、大体足並みが同じような感じのところで、松山市一部の地域だけモデル的に研究を進めているところがございます。もうそこは本当に1地域で1部活動があつたりとか、もう既にスポーツクラブがあつて実施主体ができているってところがモデル地域として上がってはいるんですけども、まだ本市のところはそこまで至ってない状況があります。

やはり、大規模校と小規模校を抱えている地域でもありますし、その学校の状況によってもこの持ち方っていうのは変わってくるかなというふうに思っておりますので、先ほども教育長のほうからありましたように、合同的にできるような競技があつたりとか、またはその地域にともともと、例えば剣道会とか柔道会とかあるようなところはそういうところの活用もできよう

かなということも考えておりますし、もう既に地域のほうから部活動の外部指導者というふうに入ってるところもありますので、そういう人材もうまく使えるのかなというふうには思っております。あらゆることを考えながら、まずちょっとできるところを探っていこうかなというところで今考えているところでございます。

アンケートについては、これから実施をさせていただいた上で、また検討会議のほうでも一つの協議材料として諮っていきたいなというふうに考えているところです。

3点目、コムスクとの絡み、もう当然地域でこういう運営、地域学校協働活動等が進んでいけば、こういう部活動のことについても及ぶこともあろうと思いますので、やはりその学校、地域との協議の中で考えていくっていうところも当然出てきようかなというところは考えているところでございます。

以上です。

○武智市長 今の教育長の発言の合同っていう、現況が既にこことここはこうですよってのが分かれば、中山の何々部は港南中学校へ来てますよとか、そういうようなのが分かればちょっと。ないの。

教育長。

○上岡教育長 中山中学校の今のバレーが港南中学校と合同でやっております。

○武智市長 そこです、ちょっと途中でごめん。その中山中学校のバレーの生徒さんたちは港南中学校にどういうふうな移動手段で行ってるんですか。

○上岡教育長 保護者が一応、放課後になると連れていってもらってます。

○武智市長 以上ですか。

○上岡教育長 今のところは。年によりますと、伊予中学校と港南中学校のソフトボールが一緒に合同で出るときもありますけれども、これは希望者が今のところはないので、今は単独で出ておりますが、先ほど言いました砥部中学校と港南中学校の野球部であると私のほうはつかんでおります。

○武智市長 昔、上野の女の子がソフトボールが上手なんで、でもソフトボール部がないから港南中学校に練習、一緒にチームをつくったりして、多分上野から港南中学校だから、自転車で رفتり親が連れていったりしよったんだろうけど、そんなものもある。特に、中山からっていうのは絶対なかなか、高校生なら、今はどうか知らんけど、単車で高校も通ってた、それを認めてた時代だったけど、中学生がじゃあ単車っていうわけにいかないから、かといって中山駅から伊予市までとか、それでもちょっとあれよね。

いろいろあるんでしょうけど、全てがデマンドからが全部連携すりゃあいいけど、なかなかうまくはいかせたいけどいけないところもあるので。中山、双海のデマンドは、基本的にはあしたからっていうわけにいかないけれども、旧の伊予市に入ってこれるようにしないと、あまりにも現場を理解できてないっていうことで、そういうこともしますけど、そのデマンドにコ

コミュニティーバスか何か部活の子が乗ってっていうても、ここも寄るここも寄るっていったら部活の時間に間に合わない。結局は、もう保護者が連れていくしかないのかなあとは思いますが。そういうのが今後増えてくるだろうと、今の学童数っていうか生徒数の減り具合からいうとそうなるんだらうなあ。

それプラス、それでも合同になりました、次にじゃあ先生が教えるんですか、できません、じゃあ地域が、企業が、もろもろが、体育協会とかいろんな組織が教えましょう、それでつくっていきましょうという位置づけは当然のことやと思うし、先生に何もかもってというのはこれは難しい話。

ほかに。今のでいいですか。

○矢野委員 結局、教育長さんのほうで学校が替わらなくても部活動ができるようにしなければならないという、最後におっしゃいましたが、やはりさっきの市長さんの話になるんですけど、中山から港南中へ連れていける保護者っていうのは限られているわけなんです。10人が10人、子供が私はこれがしたいけど、そんなん言ったってお母さんも1日働いてるのにそんなことできんわいてというのが現状じゃなかろうかなというところも考えるんです。

そんなマイナス面ばかり言ったら、これは一步も前進しないんですけど、この方向性によって1人でも救われる子供がいれば、まず1人でも救って、そしてよりもっとというふうになると、市長さんが言われたようにデマンドを活用するとか、将来です、デマンドじゃなくっても何とかのことをしないと、結局13人いる子供が来年また1人減り、部活動がないためにやっぱり港南へ行こうかなっていうふうなのを現実にもう耳にしていますから、そこらあたりなかなか心配の種です。

○武智市長 中学生ぐらいの感性でいうと、やっぱり地域愛よりも自分がしたいスポーツのほう強いもんね。

○矢野委員 そうです。

○武智市長 だったらもう港南へ行くわとか、そういうふうになるのはしょうがない部分もあるんだらうけど、多分バスとかもろもろ用意しても、いやもう本気でやりたいからってなるけど、でも基本的には今アンケートも取って、行きたいんだけど足がないというようなアンケートも取ったらいいし、その枠の中でもう一つうちが今掲げてるのは、「誰一人置き去りにしないコミュニティ」形成の中で「誰一人取り残さない伊予市」未来ビジョン、3万人が住み続ける自治体に。だから、誰一人置き去りにしないっていうのを正面に出されると、ちゃんと全てやってあげないといけないし、そりゃあそれで全てが全部っていうのはなかなか難しいところもあるけども、やはり特に義務教育課程の子供たちにはそれは間違いなくしてあげないと駄目だと私は思いますんで、そこらは今後もアンケートも取りながら、何がしかの移動手段が必要であれば、また行政としては考えますので。

たちまちはそれよりも、できたら最近よく言ってるのは、元気な75歳以上がこれからの伊予

市の元気を牽引していくんですよって敬老会では言うんですけど、その人たちもいずれ鬼籍に入る状態になります。片や、おぎゃあおぎゃああの声が聞こえない、これじゃあ誰が見たって人口が減るんは分かってるんで。本当になかなか人口減少っていうのは、少子・高齢化っていうのは私、運動会でも時々言ってるんですけど、今までできていたことができなくなると、少子・高齢化、人口減少。今まで当たり前だと思ってたことが当たり前じゃなくなるってというのが人口減少、少子・高齢化の負の付録でついてくることなんで、そこらもだからそういうことが非常にヒシと私は分かるから、何としてでも3万人は維持したいなって思うんですけど。

そういうこともございますけど、また細かいことがもし後でまた気づいたら、それは担当課にも言ってもらいたいと思います。根本的には教育委員会も、私がここで教育委員さんの前で言う話じゃないんですけど、今の体制をモデル強化をしていこうかなと、令和5年度4月から。そういう形で取ってもいきたいし、またよろしくお願いします。教育長、補足はないですか。

上岡孝教育長。

○上岡教育長 先ほど矢野委員さんからもありましたけども、課題はたくさんあると思います、いろんな面で。どうやってクリアしていくかっていうのは、やっぱりその都度いろんなことを考えながら、有識者の意見も聞きながら、先ほど議長も言われましたように、やっぱりつながりをつくっていきながら、学校もつながりもつukらないかんし、地域もつながりもつくっていかなきゃならない、コミスクもまたもう学校長のほうには、まずは組織というのにあまりこだわらず、学校長が頼みやすい人にまずはなってもらって、そこからつくっていったらどうかというのも言っております。

だから、あまり行政主体でシステムチックにつくりますとは、なかなか各学校ではできない場面もありますので、臨機応変にそうやりながら、精いっぱい教育委員会、それから学校現場と話し合いながらやっていきたいと思っております。

ただ、一遍には改革というのは無理ですので、徐々に、最終的には子供たちのためにということで頑張っていきたいと思っておりますので、また御協力のほどをよろしくお願いいたします。

○武智市長 さっき言った第2次伊予市総合計画、5年たったから見直しをしないといけないということで、5年たった2年前かな、SDGsまで入れちゃったんです。これ、SDGsを入れると大変なことなただけど、でも多様性っていうのは認めていかないといけないし、そういうことをしっかりと、人と人との尊厳っていうのは大事なことなので。

この間、伊予中学校が人権で表彰されたんですが、ビデオメッセージで松山市の市民会館でやったんですけど、あのとき、これは自慢話やけど、うちにもうちの地域の市長さんがいるっていうんで、来て人権のことを言ったんです。多様性っていうのは、私はどういうことかと言

うと、あのねと、うちの長男はフィリピンの子と結婚したんだと、今孫ができた、武智家はとうとう武智家のDNAは東南アジアに進出したね。これを日本で言う同和教育とかなんとかってやってたら、フィリピンのどこの子、誰の何とかがって、駄目だろうと。だから、そういう価値観なんだけど、なかなか鎖国をした日本だから、私の時代には多分完璧に解決できないけど、君たちが解決してねって言ったりするんだけど、やはり多様性を認めていかないといけないし、そういったことがある意味この教育会議の趣旨でもあろうし。せっかく今日はあとお二人の教育委員さんも来ておりますので、まずは長見さんから何でもいいです、ツイートしていただいて、次に片岡さん、ツイートというかしゃべっていただいて、ほんであと窪田春樹さんが締めるか岡市さんが締めるか。岡市さんにしようか、岡市さんが締める、そういうことでいこう。

じゃあ、長見さん。

○長見委員 ちょっと私が一番身近に感じるのが、その部活の問題。このように地域移行っていうのをやっていかないといけないっていうのは分かってるんですけど、子供たちの気持ちをやっぱり一番に考えた地域移行のシステムというか、やっていただきたい。地域は大事ですけども、その中で翻弄される子供たち、本当に部活を一生懸命したいのにこの指導者とか。

もちろん、それが分かった上で部活の活動をしていくんだとは思いますが、中学校の子って割といろいろ気持ちもトラブルも多い年代で、ただでさえ部活の中ってめんどろが多いんですけども、それがこういう地域移行によってよくなる場合とものと悪くなる、いろんな面があると思うんです。なので、こういうふうに方向は決まってるんですけども、まずは子供たち、この気持ちを大事にしていきたいなと感じてます。

以上です。

○武智市長 ありがとうございます。

片岡英富委員。

○片岡委員 このアンケートをちょっと見てたんですけども、子供たちのアンケートで、その中学校以外の場所で活動したいと思いますかとか、そう思う、どちらかといえばそう思う。保護者の方のアンケートで、最後の7番目のところで活動場所までの移動や送迎、こういうアンケート結果によってですけども、だから送迎とかが難しい答えが多かった場合、市としては送迎バスとかスクールバスとか使って移動させてもらうことができるのかなという。やっぱりそういうアンケートを取る時点でそういう対応というのも考えとかんといかんのじゃないのかなと思ってます。

それと、他校と合同でやるとなったときに、やっぱり強いチームをつくろうというふうになりそうな気がして、やっぱり小さい人数がそろわない学校で純粋に自分の好きなスポーツをやりたいという子供たちを受け入れるためには、やっぱりその辺を考慮した、子供たちがスポーツできるように合同でやるんだよっていうことを指導者のほうに認識してほしいなというふう

には思います。

以上です。

○武智市長 長見さんの御意見、平均的な子供たちで反抗期っていうのは大体小6から中3、高1ぐらいが結構多いですね。人によっては、私みたいにいまだに反抗期が続いてる人間もいるけど、やっぱりちょうど多感な時期っていうのは意外といろんなことがナーバスになり、トラブルも多いだろうし、そこらも考えもって、子供たちの意見を大人の事情でアンケートを取ったり、大人の事情でそういう地域移行せずに、一番の主役は子供ですから、そういったことは伊予市においても分かっていると思うので、そこはしっかり注意していきます。

片岡さんの言った部分においては、基本的に、さっきも言いましたけど、そういう地域の場所までの移動や送迎があるんであれば連れていくよとかという意見等々があれば、それはしっかりと、これは議会に通さないといけないので、ここでやりますとは言えないけれども、そういうことも構築をしていきたい、そう思ってます。

一応、それぞれの御意見を賜りまして、様々な御意見、今後の参考としてしっかりと生かしていきたいと思ってます。

教育長、今のお二人の教育委員さんに何かあれば。

○上岡教育長 言われるとおり、やっぱり子供中心に教育委員会としては子供たちの気持ちを第一に考えながら進めてまいりたいと思います。特に、先ほど言った移動の件につきましてもできる限り頑張ってみますが、特にお金の問題は窪田局長が市長さんにお頼みをしてもらうというのが大事ですので、また御協力を願ったらと思います。

○武智市長 それでは、一応時間がたったわけではございませんけれども、今日どうしても言い足りないというところがあれば御意見を聞きますが、なければ今日いただいた御意見をしっかりと参考にして反映させていきたいと思います。

それでは、本日の議題は全て終了いたしました。総括を岡市社会教育課長にさせていただいて、本日の会議を閉めたいと思います。

岡市課長。

○岡市課長 失礼します。

本日、協議2件御提案させていただきました。1点目のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、また2点目の部活動の地域移行について、この2点とも、先ほどから市長が申し上げておりますように、伊予市が今後3万人が住み続けるためにはどうしても地域及び子供たちが伊予市の主役になってもらわないと困ると。そのためには、教育委員会も学校教育課、社会教育課、2つの課はありますが、一つの目的に向かって共に協力をしながら、教育委員の皆様にも御協力をいただきながら、この2つの事業を進めることによって、よりよい伊予市が少しでも地域の方によかったなと言ってもらえるような施策になることを私たちも思いながら事業を進めてまいりたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

○武智市長 それでは、閉めてください。

○窪田局長 閉会

午前11時40分 閉会